

宮 崎 県 感 染 症 週 報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第8週の発生動向

□ 全数報告の感染症 (8週までに新たに届出のあったもの)

1 類感染症：報告なし。2 類感染症：結核 1 例。3 類感染症：報告なし。

4 類感染症：チクングニア熱 1 例。5 類感染症：アメーバ赤痢 1 例、破傷風 1 例、百日咳 6 例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	日向	40 歳代	女	無症状病原体保有者	—
4類	チクングニア熱	宮崎市	20 歳代	男	—	発熱、関節痛、発疹、全身倦怠感、頭痛、筋肉痛、リンパ節腫脹
5類	アメーバ赤痢	延岡	40 歳代	男	腸管アメーバ症	粘血便
	破傷風	日南	80 歳代	男	—	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害
	百日咳	都城	5~9歳	男	—	持続する咳、夜間の咳き込み
			5~9歳	男	—	夜間の咳き込み
		高鍋	5~9歳	男	—	持続する咳
			10 歳代	女	—	持続する咳
日向	10 歳代	女	—	持続する咳、夜間の咳き込み		
日向	10 歳代	女	—	—	持続する咳	

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

・定点医療機関からの報告総数は 1,450 人(定点当たり 32.2)で、前週比 88%と減少した。なお、前週に比べ増加した疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎と感染性胃腸炎で、減少した主な疾患はインフルエンザと流行性角結膜炎である。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

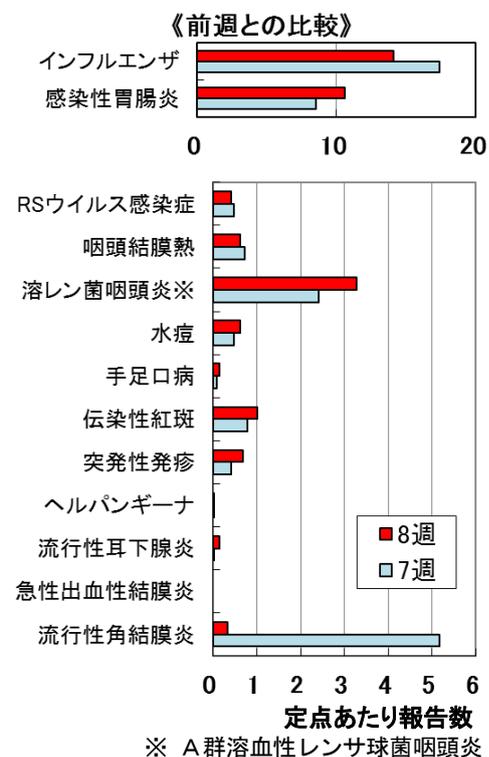
【インフルエンザ】

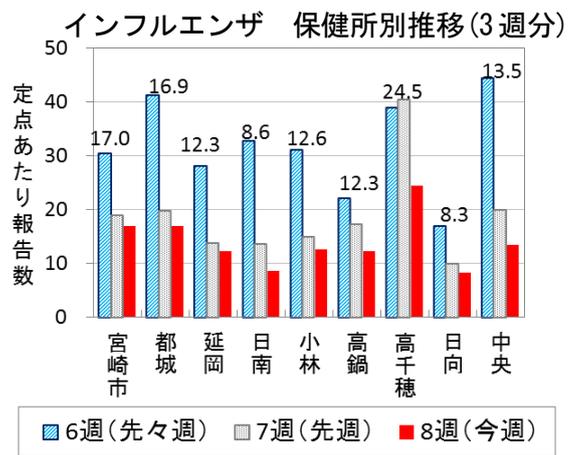
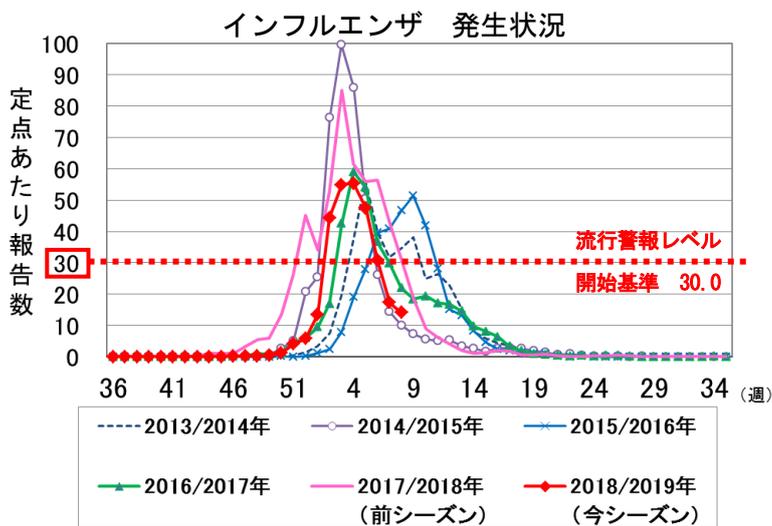
報告数は 816 人(14.1)で、前週比 81%と減少しており、例年同時期の定点当たり平均値*(29.2)の約 0.5 倍である。高千穂(24.5)、宮崎市(17.0)、都城(16.9)保健所からの報告が多く、年齢群別では 10 歳未満が全体の約 6 割を占めている。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

報告数は 118 人(3.3)で、前週比 136%と増加しており、例年同時期の定点当たり平均値*(2.0)の約 1.7 倍である。高鍋(5.3)、延岡(5.0)保健所からの報告が多く、年齢群別では 3~6 歳が全体の約 6 割を占めている。

* 過去 5 年間の当該週、前週、後週 (計 15 週) の平均

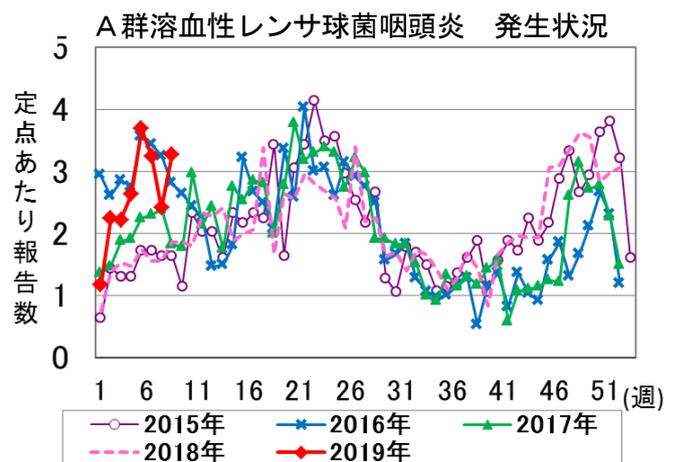




★基幹定点からの報告★

○感染性胃腸炎(ロタウイルス) :

報告数は2例で、宮崎市、日南(各1例)保健所からの報告であった。0～4歳が1例、5～9歳が1例で、病原体の群別は不明である。



★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	インフルエンザ(17.0)
都城	インフルエンザ(16.9)
延岡	インフルエンザ(12.3)
日南	感染性胃腸炎(24.0),水痘(1.0),伝染性紅斑(3.3)
小林	インフルエンザ(12.6),感染性胃腸炎(26.0)
高鍋	インフルエンザ(12.3)
高千穂	インフルエンザ(24.5)
日向	なし
中央	インフルエンザ(13.5),咽頭結膜熱(4.0),水痘(5.0)

※流行警報レベル開始基準値※

- ・咽頭結膜熱(3.0)
- ・感染性胃腸炎(20.0)
- ・水痘(2.0)
- ・伝染性紅斑(2.0)

※流行注意報レベル基準値※

- ・インフルエンザ(10.0)
- ・水痘(1.0)

□病原体検出情報 (衛生環境研究所微生物部 平成31年2月25日までに検出)

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
EPEC(OUT:HUT)	10歳代	男	2019.02.02		便	2019.02.19
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	20歳代	女	2019.02.07	無症状	咽頭ぬぐい液	2019.02.15
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	0～4歳	男	2019.02.13	百日咳疑い、発熱(37.6℃)、連続性咳嗽	咽頭ぬぐい液	2019.02.15

○20代前半の女性と0～4歳の男児から百日咳菌 (*Bordetella pertussis*) が分離・検出された。なお、0～4歳の男児は検体採取前から抗菌薬が投与されており、百日咳菌は分離されなかった。百日咳は以前から若年者～成人における患者数の増加が問題となっている。一般に百日咳は発熱がないことから成人では軽視されがちであるが、乳幼児では重篤な病態をとることがある。また、百日咳は家族内感染を起こしやすいことから、特に乳幼児のいる家庭では大人が乳幼児に対し感染源とならないよう十分注意する必要がある。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
チクングニアウイルス	20歳代	男	2019.02.16	麻疹疑い、上気道炎、39.1℃、関節痛、筋肉痛、咽頭炎、咽頭痛、発疹(紅斑)、リンパ節腫脹、充血	咽頭ぬぐい液 血漿	2019.02.19
インフルエンザウイルスAH1pdm09	50歳代	男	2019.01.24	インフルエンザ肺炎、発熱、下気道炎(肺炎)、胃腸炎(下痢)、ショック症状(低血圧)	気管吸引液	2019.02.19
インフルエンザウイルスAH1pdm09	30歳代	男	2019.01.24	インフルエンザA型、38.0℃、下気道炎(気管支炎)、関節痛、筋肉痛(関節炎)	鼻汁	2019.02.19
インフルエンザウイルスAH1pdm09	5～9歳	女	2019.01.22	インフルエンザA型、38.9℃、気管支炎	咽頭ぬぐい液	2019.02.19
インフルエンザウイルスAH3	80歳代	女	2019.01.31	インフルエンザA型、38.1℃、上気道炎(咽頭炎)、下気道炎(気管支炎)	鼻汁	2019.02.19
インフルエンザウイルスAH3	0～4歳	女	2019.01.31	インフルエンザA型、40.4℃、上気道炎	鼻汁	2019.02.19
インフルエンザウイルスAH3	0～4歳	男	2019.01.07	インフルエンザA型、38.9℃	鼻汁	2019.02.19
インフルエンザウイルスAH3	0～4歳	女	2019.01.22	インフルエンザA型、40.0℃、下気道炎(気管支炎)	鼻汁	2019.02.19

○インフルエンザと診断された7名からインフルエンザウイルスが分離・検出された。2019年2月22日現在の全国のインフルエンザウイルス分離・検出情報をみるとAH3が最も多く、次いでAH1pdm09、B型の順となっている。全国的に流行のピークは過ぎたものの、今後も手洗いうがいやマスクの着用など感染予防策をとることが重要である。

📊 全国 2019 年第 7 週の発生動向

□ 全数報告の感染症 (全国第 7 週)

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	288 例				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	23 例				
4類感染症	E 型肝炎	4 例	A 型肝炎	8 例	つつが虫病	1 例
	デング熱	4 例	日本紅斑熱	2 例	マラリア	1 例
	レジオネラ症	22 例				
5類感染症	アメーバ赤痢	8 例	ウイルス性肝炎	1 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	26 例
	急性弛緩性麻痺	2 例	急性脳炎	13 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	3 例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	10 例	後天性免疫不全症候群	16 例	ジアルジア症	3 例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4 例	侵襲性髄膜炎菌感染症	1 例	侵襲性肺炎球菌感染症	33 例
	水痘 (入院例)	3 例	梅毒	69 例	播種性クリプトコックス症	1 例
	破傷風	1 例	百日咳	194 例	風しん	65 例
	麻しん	48 例				

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 59%と減少した。なお、前週と比較して増加した主な疾患は特になく、減少した主な疾患はインフルエンザと手足口病である。

インフルエンザの報告数は 61,992 人 (12.5) で前週比 48%と減少しており、例年同時期の定点当たり平均値* (27.1) の約 0.5 倍である。沖縄県 (23.2)、福島県 (21.4) からの報告が多く、年齢群別では 10 歳未満が全体の約 5 割を占めている。

伝染性紅斑の報告数は 1,579 人 (0.50) で前週比 88%と減少したが、例年同時期の定点当たり平均値* (0.20) の 2.5 倍である。宮城県 (1.8)、新潟県・山形県 (各 1.6) からの報告が多く、年齢群別では 4～6 歳が全体の約 5 割を占めている

* 過去 5 年間の当該週、前週、後週 (計 15 週) の平均

宮崎県 感染症情報

(71定点医療機関)

2019年 第08週(02月18日～02月24日)

疾病名		第07週	第08週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	1007	816	255	169	86	43	63	74	49	50	27
	定点あたり	17.36	14.07	17.00	16.90	12.29	8.60	12.60	12.33	24.50	8.33	13.50
RSウイルス 感染症	報告数	17	15	5	3	1		1	3	2		
	定点あたり	0.47	0.42	0.50	0.50	0.25	0.00	0.33	0.75	2.00	0.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	26	22		7	1	6		1		3	4
	定点あたり	0.72	0.61	0.00	1.17	0.25	2.00	0.00	0.25	0.00	0.75	4.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	87	118	44	14	20	3	12	21		3	1
	定点あたり	2.42	3.28	4.40	2.33	5.00	1.00	4.00	5.25	0.00	0.75	1.00
感染性胃腸炎	報告数	307	382	72	72	6	72	78	33	5	30	14
	定点あたり	8.53	10.61	7.20	12.00	1.50	24.00	26.00	8.25	5.00	7.50	14.00
水痘	報告数	17	22	8	4	1	3				1	5
	定点あたり	0.47	0.61	0.80	0.67	0.25	1.00	0.00	0.00	0.00	0.25	5.00
手足口病	報告数	3	5	2	2	1						
	定点あたり	0.08	0.14	0.20	0.33	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
伝染性紅斑	報告数	28	36	14		2	10	4	6			
	定点あたり	0.78	1.00	1.40	0.00	0.50	3.33	1.33	1.50	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	15	24	10	2	4	3				5	
	定点あたり	0.42	0.67	1.00	0.33	1.00	1.00	0.00	0.00	0.00	1.25	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	1	1			1						
	定点あたり	0.03	0.03	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	1	5			4					1	
	定点あたり	0.03	0.14	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	31	2	2								
	定点あたり	5.17	0.33	0.67	0.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数	1	2	1			1					
	定点あたり	0.14	0.29	1.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:58、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点あたり報告数

全数把握対象疾患累積報告数(2019年第1週～8週)

2類感染症	結核	25例(1)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1例				
4類感染症	チクングニア熱	1例(1)	つつが虫病	3例		
	アメーバ赤痢	1例(1)	ウイルス性肝炎	1例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1例
5類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3例	侵襲性肺炎球菌感染症	2例	梅毒	1例
	破傷風	1例(1)	百日咳	48例(6)		

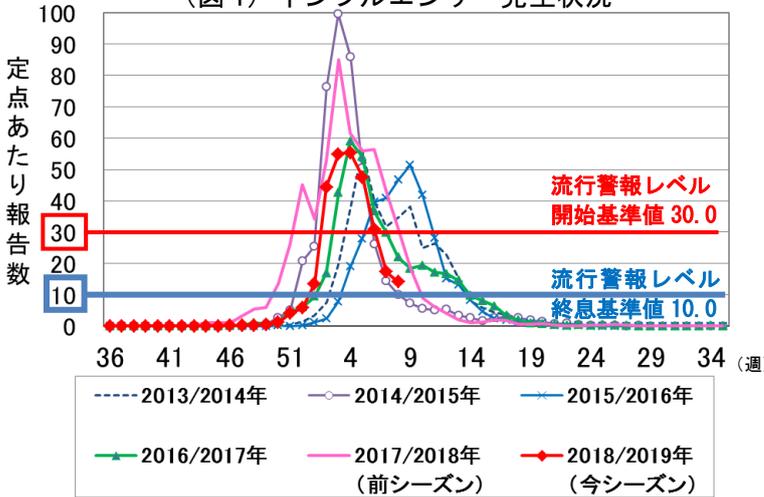
()内は今週届出分、再掲

インフルエンザ情報《県内第8週、全国第7週（再掲）》

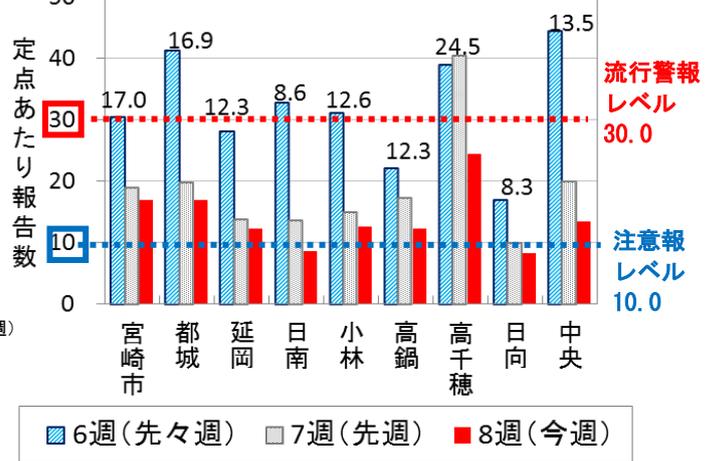
□ 県内第8週インフルエンザ発生動向

2019年2月18日～2月24日までの1週間で816人（14.1）の報告があった。前週の約0.8倍と減少しており、例年同時期の定点あたり平均値*（29.2）の約0.5倍である（図1）。保健所別推移を図2に示す。年齢群別では5歳未満が全体の29%、5-9歳が32%、10-14歳が15%、15-19歳が2%、20-59歳が15%、60歳以上が7%を占めている（図3）*過去5年間の当該週、前週、後週（計15週）の平均値

（図1）インフルエンザ発生状況



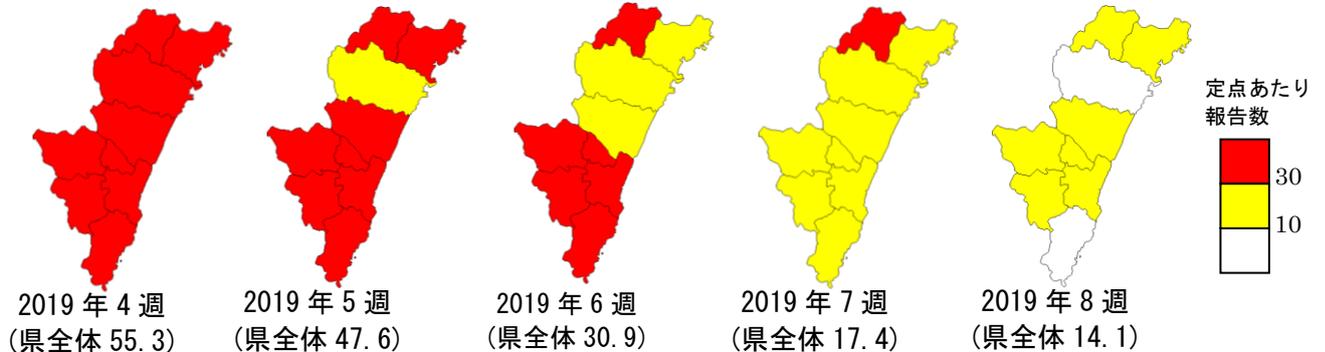
（図2）インフルエンザ保健所別推移（3週分）



（図3）年齢群別割合の推移（2019年第4週～第8週）

週	5歳未満	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～59歳	60歳以上
4週 3,210人	23%	30%	17%	5%	18%	7%
5週 2,760人	23%	28%	17%	4%	20%	8%
6週 1,790人	26%	29%	16%	5%	17%	7%
7週 1,007人	26%	29%	13%	5%	19%	8%
8週 816人	29%	32%	15%	2%	15%	7%

保健所別インフルエンザ流行レベルマップ 2019年第4週～第8週



□ 全国第7週インフルエンザ発生動向

2019年2月11日～2月17日までの1週間で61,992人（12.5）の報告があり、前週の約0.5倍と減少した。沖縄県(23.2)、福島県(21.4)、新潟県(19.4)、大分県(19.3)からの報告が多い。年齢群別では5歳未満が全体の22%、5-9歳が25%、10-14歳が14%、15-19歳が4%、20-59歳が25%、60歳以上が10%である。